

食品新基準値への反対意見

来月から食品中の放射性セシウムの新しい基準値が施行される。厚生労働省の引き下げ案を「過剰規制だ」として有力専門家が意見公募に反対意見の投稿を呼び掛けたが、ことあるうかが日本医学物理学会の会長名でも行われていた。背景にあるものは何か。

(小坂井文彦、中山洋子)

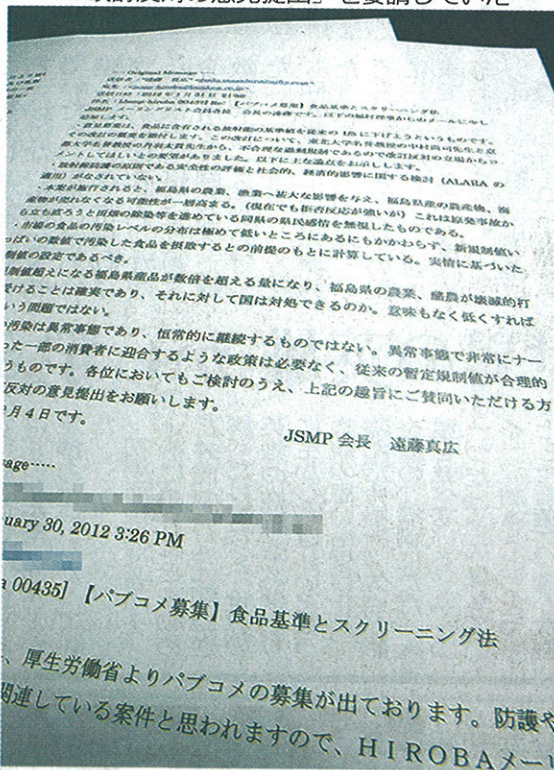
食品中の放射性セシウムの新基準値 (単位はベクレル/kg)

現在の暫定規制値		新基準値	
野菜類	500	年1ミリシーベルト 一般食品	100
穀類・肉・卵・魚その他	500	牛乳	50
牛乳製品	200	乳児用食品	50
飲料水	200	飲料水	10

「賛同いただける方は、抑えるために、野菜やコーン〇〇〇〇としていた。是非、改訂反対の意見提出をお願いします」。一月末、日本医学物理学会(事務局・東京都新宿区)の会員にメーリングリストでこんな呼び掛けが来た。送信者は遠藤真広会長。内容は食品の新基準値案についての意見公募で反対意見の投稿を促すものだった。

同案は、原発事故後に定めた暫定規制値を五分の一に引き下げる案だ。飲食による内部被ばくを年間5ミリシーベルトに

遠藤真広会長が送った文面。厚労省の食品基準のパブコメ募集(意見公募)「改訂反対の意見提出」を要請していた



JSMF 会長 遠藤真広
February 30, 2012 3:26 PM
【パブコメ募集】食品基準とスクリーニング法
厚生労働省よりパブコメの募集が出ております。防護と関連している案件と思われるので、HIROBAメー...

なる福島県産品が数倍を超える量になり、同県の農業、酪農が壊滅的打撃を受ける。県民感情を無視したもの。「異常事態で非常にナーバスになった一部の消費者に迎合するような政策は必要なく、従来の暫定規制値が合理的」と訴えていた。さらに、二月中旬に反対意見の投稿要請が発覚した文部科学省放射線審議会の前会長、中村尚司、東北大名教授から「不

会長名「従来の規制値が合理的」

合理的な過剰規制なので改訂反対の立場から「千葉市」に勧めていた。トしてほしい」と要望を放射線の研究者としての受けたと明かしている。考えという。

しかし同学会は、医療でエックス線などを扱う診療放射線技師ら約二千人の集まり。食品と関係のない学会でなぜ、こんな呼び掛けをしたのか。国際放射線防護委員会(ICRP)の基準を適

「会長名でメールを送ったので誤解を招いた。個人としての意見だ」と前置きし、「規制値の厳格化で、放射線アレルギーが広まり、患者が放射線治療を受けなくなるのが心配。他の放射線規制に波及すること、ICRP自体の信頼性が揺らいでいることには

「原発事故後、御用委員会」とやゆする向きもあるが、うがった見方。非常に厳しく放射線の基準を定めており、中立的な組織だ」と述べた。食品の放射能汚染については、「セシウムは次に土壌に安定した形で固定化し、水に溶けなくなる。おそろしく騒ぎは二、三年で収まる」とみて、こう語った。「暫定規制値を継続して問題のないことを冷静に伝えることが最善なのです」

医学物理学会でも要請

番組表の記号の見方
②2カ国語放送 ④音声多重放送 SS臨場感のある高音質 ⑤手話放送 ⑥解目の不自由な人



潜入り 石川・B 穴埋めド を送る。「 きジャガイ 埋めドリル ガイモの音 や、ジャガ 生活の知恵 届ける。ま ップスの工 ポートの製 する。 嵐にしや 金沢・K 5対5の れ、さまざ り広げる「 やがれ」を 長・河本準

5 特報部

根拠のICRP揺らぐ

医学界からは疑問の声「しすぎる」と注文を付けも上がる。北海道がんセンターの放射線審議会。一体、

「浅はかなことを言っている。内部被ばくは少ない方がよい。福島の問題は科学とは別物で、物理学者が心配するものではない」と批判する。遠藤会長の勤める治療センターの設立に九州電力が資金提供したことを

「一〇〇ミリシーベルト以下でも線量とその影響の発症率に比例関係があると仮定」と防護策を勧めている。ICRPは二つの歴史的な罪を犯している」と話すのは、内部被ばくに詳しい矢ヶ崎克馬琉球大名誉教授だ。「一つは公益のためには犠牲も仕方がないという功利主義の考えを展開」。設立時は健康を守るためだったのが「間もなく原発と核戦略を進める米国権力筋の論理が浸透した」。

「低線量被ばくデータ排除」
放射線審からメンバー5人
ICRPの論文が正しいとされている。新基準値が放射線治療に与える影響については「全く問題はない。患者も医者も効果は被ばくの影響を上回るのかをみて、治療を決めるのだから」と語った。だが、岐阜環境医学研究所の松井英介所長(放

放射線審からメンバー5人



体。基準値自体が非常に危ない」と指摘する。マンクソ博士が原発作業員の被ばく限度として提言した数字という。七七年の博士の報告は

「ICRPは二つの歴史的な罪を犯している」と話すのは、内部被ばくに詳しい矢ヶ崎克馬琉球大名誉教授だ。「一つは公益のためには犠牲も仕方がないという功利主義の考えを展開」。設立時は健康を守るためだったのが「間もなく原発と核戦略を進める米国権力筋の論理が浸透した」。

「低線量被ばくデータ排除」

ICRPは「一〇〇ミリシーベルト以下のデータがない」とするが、「低線量被ばくのデータを公的記録に載せないように排除して、内部被ばくの犠牲者を隠してきた。その勧告とは平時は原発の運転を妨げない限度値を設定し、事故時には各国政府や電力会社の責任を軽くするための命や健康を第一に考えたものではない」と断じた。

放射線審議会は、その勧告すらも軽視していると批判されてきた。今後原子力規制庁の所管になるが、松井氏は「事故原因をつくった官僚組織や原子力産業界から独立性が保たれない限り、子どもの安全を考えたチェックなどできない。むしろ国会に監視委員会をつくらう」と唱えた。

意見公募で新基準値案が「厳しすぎる」は五十五件。「乳児用食品五〇は過度に安全側の想定」「過大な安全余裕は福島などの復興を阻害」「ICRPの最適化の考えによる基準値を...。一方、二千二百七十件の「より厳しく」「子どもにさらに配慮を」には親たちの真剣な思いが詰

BS
問い合わせ電話番号
WOWW
=0120-580-807
Dlife
番組は放送局の都合により変更される場合があります。